

平成29年度第2回若葉区支え合いのまち推進協議会議事要旨

1 日 時 平成29年9月27日（水）10時00分～12時00分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 赤間委員、市原委員、江口委員、小川委員、大嶋委員、尾出委員、尾崎委員、角田委員、加藤委員、菊次委員、小出委員、立野委員、田中（要）委員、田中（由）委員、津田委員、鶴岡委員、縫部委員、畑山委員、日暮委員、布施委員、松野委員、山内委員、山谷委員

(2) 事務局 石原保健福祉センター所長、金澤社協区事務所長
岡本地域づくり支援室長、萩原高齢障害支援課補佐
田中高齢障害支援課主査、黒木地域福祉課主査
鈴木社協区事務所主査補、丹下高齢障害支援課主任主事
島野地域福祉課主任主事

4 議題

- (1) 第4期若葉区支え合いのまち推進計画（案）について
- (2) 第4期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の決定について
- (3) 事例報告について

5 報告事項

- (1) 市民説明会について
- (2) 生活支援サービス活用ガイドについて

6 議事の概要

- (1) 第4期若葉区支え合いのまち推進計画（案）について
第4期若葉区支え合いのまち推進計画（案）について、田中主査より説明した。
- (2) 第4期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の決定について
第4期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の決定について、田中主査より説明した。
- (3) 事例報告について
事例報告について、御殿町若人会の渡辺氏より説明した。
- (4) 報告事項（1）市民説明会について
市民説明会について、黒木主査より説明した。
- (5) 報告事項（2）生活支援サービス活用ガイドについて
生活支援サービス活用ガイドについて、田中委員より説明した。

7 会議経過

- (1) 開会（事務局）
- (2) 開会挨拶（津田委員長）
- (3) 議事

○委員長

それでは、議題（１）第４期若葉区支え合いのまち推進計画案について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

第４期若葉区支え合いのまち推進計画案について、資料１により第３期若葉区支え合いのまち推進計画と変更点を説明

○委員長

ただいまの説明に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

（特になく承認）

○委員長

次に、議題（２）第４期若葉区支え合いのまち重点取組項目の決定について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

第４期若葉区支え合いのまち推進計画における地区部会エリアの重点取組項目としては、１４地区部会エリアから５１項目が選定された。

選定率として、仕組み１が５１％、仕組み２が２５％、仕組み３が１４％、仕組み４が４％、仕組み５が６％となった。

○委員長

ただいまの説明に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

（特になく承認）

○委員長

次に、議題（３）事例報告、御殿町若人会の活動について、若人会代表の渡辺氏より説明をお願いしたい。

○渡辺氏

御殿町は住民２４０人、６０世帯、高齢化率は３４％という地域である。

現役の自治会運営をしている年代は６０代から８０代であるが、子ども世代である３０代から４０代は、地域のつながりが少ないと皆が感じていた。

そのような状況を少しでも解消するため、平成２４年１２月に御殿町に住む若者を中心とする第１回「御殿町若人会」を開催した。御殿町を離れてしまった人たちが、年に１回はあの行事があるから皆に会いに帰ろうという、何かをつくりたいと考え、そこから子ども達が集い心に残るものとして、平成２６年第１回御殿町夏祭りを、自治会協力のもと開催した。

第１回目は、子どものためだけの祭りになってしまったと皆が反省し、自分達が求めているのは、地域のお年寄りも誰もが参加できる祭りにすることという思いに至った。

翌年に向け、地域で祭りをやっていると聞きつけた方から、自分の町内で昔使っていた子ども御輿をいただけることとなり、修繕や塗装が必要であったが、得意な方々が新品同様に直してくれた。

翌年には、御成街道を子ども御輿で練り歩いたところ、少しずつ地域に認知度が広がってきた。

３年目には、集会所の脇にある広大な空地进行することが出来た。場所が広く、やぐらも２台組み、提灯の絵は地域の子供達で絵を書くなど、手作り感を出すことが出来た。

また、地域のお年寄りが樽酒の樽から太鼓を作ってくれ、子ども達に叩いてほしいということなど、徐々に地域に祭りが広がってきた。

一方、祭りをやる資金がなかったが、若人会で60世帯全てに1件1件チラシを配って協賛金を募ったところ、20万円という大金を得られ、射的やヨーヨー釣りなどいろいろ出来るようになった。また、地域の企業で金魚を養殖しているところがあり、祭りの話しをしたところ、金魚すくいはどうかということで、地域貢献活動の一環として無償で提供してくれた。

開催する側の担い手としては、中学生以上が協力者として参加出来た。

次世代の担い手を育成するためにも、自分達の町で祭りをやり、自分達が必要とされているというのを、祭りを通じてみつけてもらうようにした。

今年の祭りでは、子ども達が太鼓をやりたいということで、花見川区在住の太鼓で有名な方が賛同してくれ、無償で教えてくれた。

また、チラシは小学校、中学校、御殿町の各家庭に1枚ずつ配り、祭りの内容、若人会や夏祭り開催に至った経緯を掲載し呼びかけを定着するとともにお礼を兼ねた。

祭りが定着する中、高齢者の参加が少ないため、高齢者が気兼ねなく参加できるものがあるかないか考えた。高齢者が地域ですっと過ごせるために、地域の集いの場として参加が出来るよう平成28年11月20日、「御殿茶屋」のサロンをプレオープンした。

担い手側として、若人会のママたち、高校生や小学生も手伝ってくれた。

開催後、サロンの様子がわかるチラシを作成し配ったところ、男性参加者もいるとわかり他の男性の参加につながった。

また、活動を通して自治会館内のいろいろなことに気づいた。例えばトイレの段差が50～60センチメートルあることで、高齢者がトイレへ行きづらく水分を取るのを控えていた。

また、エアコンもなかった。これからこの自治会を拠点として地域活動を盛り上げていくためにもどうにか出来ないか自治会総会で提案したところ、トイレの段差解消、エアコンも設置され劇的な改善となった。

現在の若人会の取組内容は、交流サロン、ラジオ体操、町内活動、夏祭りなどとなっているが、目指す地域づくりは、大きく分けて福祉教育、地域福祉である。

福祉教育は子ども、地域住民に対して、地元を愛し地域愛を育ませるためにどうしたらよいかをコンセプトとしている。自分の地域を愛し大きくなったら地域外に移転しても、また戻ってくるという活動をしていきたい。

地域福祉としては、国でも進められている「我が事・丸ごと」という言葉があるが、実際我が事でないとは動かないと実感した。人と資源が世代や分野を超えて地域に広がる実感が出来た。

誰もが住み慣れた地域で最後まで住んでいきたいというのが、活動の根底にある。

若人会の合言葉は、「無理なく出来る人から出来ることをして、楽しくやる」としている。

高齢者が苦手という人であれば、運営する会場づくりをするというように、自分が好きなことをやらないと長続きがしないので、そこを大事としている。

また、活動をして気づいたのは一人だと長続きしない。最初の立ち上げ時は、会長役、事務的役、会計役と3人を見つけた。今は3人が中心となって動いている。今は一人が万が一不在となっても、動ける仕組みが必要と考える。

最後に、若い人がやれることがあるとあって町内自治会等で提案等しても、若造が何を言っているのかとなって受け入れてもらえないことがある。そのためにも若人会では活動を継続し、地域の人から認められ、更に若い世代に伝えていきたい。

○委員長

ただいまの説明に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

一番苦勞した点は。

○渡辺氏

自治会との交渉事が苦勞した点である。ただトイレを直してくれといってもお金はないので、地域のために必要であるということを説得し、納得してもらうことが必要であった。

○委員

若人会に年齢制限はあるのか。また、自治会の中にある組織なのか。

○渡辺氏

基本的には自治会運営に入っていない30代から40代くらいであるが、今は自治会に入っているメンバーも入ってもらっている。組織については、自治会の中のものではないが地域活動としては共同体として運営している。

○委員

以前は各町内自治会で夏祭りを盛大にやっていたが出来なくなったため、今は小学校を借りて2町内自治会が共同で実施するようになった。

子どもが参加できるよう、踊るだけでなく10件くらい屋台をやるようになった。

○委員

私の地域は半数が高齢者であり自分達でどうにかしないといけないと考えていたが、後継者・若い世代が地域を考えている活動をしており敬意を表したい。

○渡辺氏

私達の地域の若い世代で考えているのは、自治会長は1年では何も出来ないし一人に大変なことが全て押し付けられていることでなり手がいない。会長に負担がかからないよう、少しでも分散できるように進めている。

○委員

私の地域では伝統を重んじており、若い人が昔からいる人の輪の中になかなか入っていけずに、外に出て行ってしまう。

○委員

人材発掘と育成、後継者の育成ということで大変参考となった。

○委員

参考に聞きたいが、食材を提供する場合検査等はどうなのか。

また、若い世代の運営は仕事等でなかなか厳しいのでは。

○渡辺氏

腸内細菌検査は食材を提供する者は全員検査した。また火器については消防からの指示のもと実施した。

若い世代で時間は無いところではあるが、自分ごととして、どうしたら地域がうまくやっ
ていけるかということ共感して出来るところを支え合って運営してきた。

○委員長

次に、報告事項（１）市民説明会について、地域福祉課黒木主査より説明をお願いしたい。

○黒木主査

第４期地域福祉計画の市民説明会であるが、若葉区では１０月２８日（土）１４時から若
葉保健福祉センターにおいて開催する。

○委員長

ただいまの報告に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

市民説明会では第４期の計画案を説明していくと思うが、第３期の成果などの説明はある
のか。またこれまでの計画との整合性などの説明はあるのか。

○黒木主査

地域福祉計画とは何かという説明から第３期、第４期計画という経過を説明していきたい。

○委員

若葉区の定員は８０名となっているが、本当に聞いてもらいたい自治会関係者などへの呼
びかけはどう考えているか。

○黒木主査

民事協や市政だより等で周知していきたい。

○委員長

次に、報告事項（２）生活支援サービス活用ガイドについて、生活支援コーディネーター
の田中委員より説明をお願いしたい。

○田中委員

生活支援サービス活用ガイドは平成２９年６月に発行された。内容としては家事支援、外
出支援、日用品・食材・弁当の宅配等、見守り安否確認等の分野をわかるように千葉市全体
のものを掲載している。連絡としては掲載されている団体等に直接ではなく、生活支援コー
ディネーターや区社協に相談連絡をもらい内容説明していく。地域で活用してもらいたい。

○委員長

ただいまの報告に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

（特になし）

○事務局

今後の実施予定として、平成２９年１１月は第２回地域福祉専門分科会、１２月はパブ
リックコメント手続きと第３回若葉区支え合いのまち推進協議会、平成３０年３月には、第
３回地域福祉専門分科会、第４回若葉区支え合いのまち推進協議会を実施したい。

○委員長

他になければ、本日の議題はこれで終了する。

○事務局

本日の会議の議事要旨は約1か月後、市のホームページに掲載を予定している。

次回の開催日程は、12月14日（木）を予定。

以上で、第2回若葉区支え合いのまち推進協議会を終了する。